

活用効果評価結果

公開版

令和4年度

四国地方整備局 / 新技術活用評価会議

N E T I S 情 報	開発目標		経済性の向上、安全性の向上																							
	新技術登録番号	QS-190050-A	区分	製品												有用な技術の位置づけ	無し									
	分類	仮設工 - 足場支保工 - 足場工																								
	新技術名	水抜きパイプ取付専用足場ブラケット「水抜きパイプ足場」																								
	比較する従来技術(従来工法)	単管傾斜足場																								
活 用 効 果 評 価	新技術の概要及び特徴	積ブロック等の仮設足場工において、水抜きパイプに差し込んで締め付けるだけで設置可能な足場ブラケット。																								
	所見	<ul style="list-style-type: none"> 水抜きパイプに差し込み固定するブラケットを用いたことにより、単管足場等を底部から組み上げる必要がなくなるため、労務費の削減(経済性の向上)、作業量の低減(施工性の向上)及び工程の短縮が期待できる。 足場組立作業(高所作業)の時間短縮が図られるため、安全性の向上が期待できる。 																<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p> <p>参考</p>								
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 活用効果調査の結果、活用現場の違いによる大きな差異は認められないため、情報種別記号を「-VE」とし、今後の活用効果調査、事後評価は実施しないものとする。 																								
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ブラケットが固定されていることを確認すること。 水抜きパイプ内部が健全であり、かつ水抜きパイプが堅固な状態であることを確認すること。 施工後に、水抜きパイプの状態に異常がないことを確認すること。 																								
活用効果調査表における改良点及び要望	・特になし																									
参 考	対 象 工 事	1	災害復旧工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		2	トンネル工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		3	河川護岸工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		4	道路改良工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		5	河道整備工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		6	砂防築堤工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		7	道路改良工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		8	道路改良工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		9	河川護岸工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		10	道路改良工事														従来技術: 単管傾斜足場	活用型: 施工者選定型(契約後提案)								
		11																								
		12																								
		13																								
		14																								
		15																								
		16																								
		17																								
		18																								
		19																								
		20																								
活 用 効 果 調 査 結 果	施 工 時 評 価	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)		
		項目	R1	R1	R1	R2	R2	R2	R3	R3	R3	R3														
		経済性	A	B	C	C	B	A	B	A	C	B													B	C
		工程	A	B	B	B	B	A	B	A	C	B													B	C
		品質・出来形	-	-	-	-	C	B	-	-	C	C													-	-
		安全性	B	B	C	C	B	B	B	B	C	A													B	C
		施工性	A	B	B	B	B	B	B	A	B	B													B	C
		環境	-	-	-	-	C	C	-	-	C	C													-	-
		その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													-	-
		総合評価点	A	B	B	B	B	B	B	B	C	B													B	C
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用することもある			技術の改良を強く望む			各項目における判定													
50%			45%			5%			0%			A		従来技術より極めて優れる												
												B		従来技術より優れる												
												C		従来技術と同等												
												D		従来技術より劣る												
追跡調査の必要性	・耐久性等の経過観察が必要な製品でないため、追跡調査は必要ない。																									
追跡調査	・なし																									